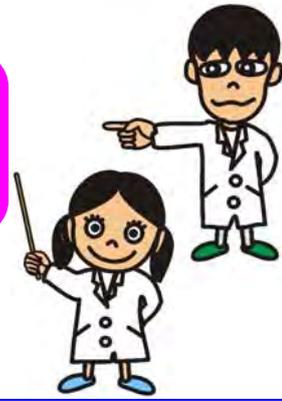


# 感染症に気をつけよう！



平成26年  
【2月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明
インフルエンザ	 大流行	 増加	1月末に警報が出ました。学級閉鎖も急増しています。下の解説を参考にして、 <u>流行の拡大に備え</u> ましょう。
感染性胃腸炎	 流行	 やや増加	流行のピーク後、減少していましたが、再び増える傾向です。 <u>適切な手洗い・消毒・加熱で予防</u> しましょう。【12月号】
麻疹	 散発	 横ばい	海外での感染例が報告されました。 <u>予防にはワクチン接種</u> が必要です。3月までの <u>費用助成</u> も実施されています。

クリック

## 今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

 インフルエンザウイルスの感染が原因です。症状は 38℃以上の発熱や咳、のどの痛み、全身の倦怠感(けんたいかん)や関節痛などで、普通の風邪とは違います。例年、1～2月に流行のピークがあり、学校等では集団発生もみられます。

 今シーズンに多く出ている型(AH1pdm09)は、以前、世界的に流行した際、妊婦の重症化が問題になっており、妊婦では特に注意が必要です。また、すでにインフルエンザによる脳症が報告されています。症状の急激な悪化にも注意しましょう。高齢者やぜん息などの持病がある人も重症になりやすいです。自分で判断しないで早めに受診しましょう。



 患者の咳で飛び散ったしぶき(飛沫:ひまつ)や鼻水には、ウイルスが含まれているので、飛沫を含んだ空気を吸い込んだ人に、インフルエンザが感染します。飛沫で汚れた物に触れた手からも、目や鼻の粘膜を通じて感染します。感染を避けるためには手洗い・うがいが大事です。また、人混みを避け、規則正しい生活を心がけましょう。部屋の湿度を保つことも効果的です。



 患者になったら他の人にうつさないように、マスクを着けるなど飛沫が飛び散ることを防ぐ咳エチケットを守りましょう。抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす可能性があります。症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は、学校等を休みましょう。

